

2020年日本が世界に発信すべきメッセージ

2020年、東京でのオリンピック開催に向けて日本の魅力を最大限に発信して欲しい。外国人として、日本に住めば住むほど感じることもある、それは日本の魅力に一番気づいていないのは実は日本人ではないのかと。日本人が思っている以上に世界から注目されている国だ。そんな国で約5年後に行われるオリンピック、世界は沢山のことを期待しているに違いない。そして日本はそれに応えられるはずだ。時間もまだある。オリンピックを利用して日本人が気付いていない日本の魅力を発揮できることを、ここにリストにしてみたい。また、オリンピックまでに日本が対外的にしておくべきこともあるのでその事についても、述べてゆきたいと思う。オリンピック後も海外からの訪問者の絶えない国際的な国へと成長し、次のオリンピックへの良い影響につながるバトンを渡し、世界の人々の記憶に刻まれるオリンピックを開催出来ると信じている。

今から約5年後に東京で開催されるオリンピックへの準備に向けて、課題は山積だが、他国での開催に比べれば、簡単な面も多いであろう。そこで稼げた時間とお金を活かし日本は世界の人々の記憶に残るオリンピックをプロデュースするだけでなく、今後の日本の存在感を多くの面で高めることに集中すべきだ。簡単な面とは、治安と交通の便が良く、建設技術もとても優れている。どれも世界最高と言っても過言ではない。この辺りのインフラをオリンピックに向けて一から整える必要のない日本はとても有利だと思う。

具体的に、この先5年という長くも短くもない時間を有効に活用し、日本が得意とする省エネ技術、少ないエネルギーでオリンピックを行えば、オリンピックはお金が掛かるというイメージを払拭出来るだろう。実現すれば、今後は未開催の国、例えばアフリカ大陸での開催実現も近づくかもしれない。また、オリンピック後、世界の人々が日常生活においても省エネや環境を意識した暮らしを自主的に求めるようになると良い。日本の家電製品はどれをとっても節電や節水といった省エネ設定が搭載されている。日本人にとっては当たり前の省エネ家電、海外では未だに主流になっていないのは非常に残念だ。日本人に比べると、外国人は環境問題に対しての知識が乏しく、他人事という認識だ。よって家電製品も、省エネ機能よりも中国、韓国製の安値重視という傾向なのが

現状だ。しかし、日本人は根強くエコフレンドリーな家電を好む、たとえそれが、かさむ光熱費を抑える為だけだったとしても結果、個人が地球環境にやさしい生活を送れているのだ。地球温暖化が早足で進む中、こういった個々のちょっとした心がけが環境破壊を少しでもくい止められる。そのことをもっと世界中の人に知ってもらいたい。オリンピックという世界各国の人が日本に集まる機会を最大限に利用し、少ないエネルギーで競技運営を行えたことを証明できれば、日本発、地球規模での環境意識のレベルが上がることを期待出来る。

同じく日本発と誇れるものに、街の綺麗さが言えるであろう。日本人ひとりひとりがポイ捨てをしないというマナーを持ち合わせているからだと思う。「日本はきれいな国」と外国人が高く評価している。この当たり前の常識をオリンピック前に国民に教育する必要のない日本は本当に恵まれている。2008年中国、北京で行われたオリンピックで、国民は町中をパジャマのような格好で歩き回らないよう言われた。また、政府が国のメンツを失わないようポイ捨てを控えようと呼びかけ、車両規制やゴミ分別政策を取ったが、オリンピック期間限定で終わってしまった。そして今や北京は大気汚染の街として世界に知られている。北京には世界遺産に登録された観光地がいくつもあるにも関わらず、観光地としての魅力が損なわれつつある。現に、中国国家観光局の統計によると北京への外国観光客が大幅に減少している。この事例から学び、2020年までに日本が更に胸を張って選手と観客を迎え入れられるよう出来ることはまだある。具体的に、放置自転車減らす、歩きタバコとポイ捨てを減らすなど。過ぎしやすければ、人はまた日本に帰ってくる。オリンピック後も訪問客の絶えない国であるべきだ。

過去のオリンピックから学ぶといえ、直近のロンドンからは学べることが多い。オリンピックに使用した競技施設等をロンドン市民の為に活かし競技場周辺が暮らしやすい街に変わった。オリンピック施設建設が、街の再開発につながった。イギリス国民の未来に遺産を残せたと言える。東京も日本が未来に残したいものをオリンピックを通して創造し、更に成熟した都市に変え、2020年以降も人々が暮らしやすい都市を維持していくべきだ。少子高齢化に歯止めがきかない日本、今後更に一人暮らしの高齢者、共働きの家の一人っ子のような「個人」が増えてしまう。孤独死を防ぎ子どもの安全確保のため、世代を

超人々が集い助け合えるようなコミュニティーが必要ではないだろうか。高齢者のためのケアサービス、託児所、保育園とカテゴリー分けせずに、例えば選手村等の施設を高齢者、幼児、学童を必要とする放課後の小学生みんなが共存出来るような場所にし、人と人がつながると良い。少子高齢化は中国、韓国やその他の国も日本を追いかけている。どの世代も安全に楽しく過ごせる社会のロールモデルを作っておいて欲しい。

パラリンピックもロンドンオリンピックから学べることが多い。ロンドン市民はボランティアとして参加し、この活動は今でも続いている。日本はこれをパラリンピックに活かさないだろうか。選手だけがパラリンピックに参加するだけでなく、運動選手ではない障害を持つ人がボランティアとして参加するなど、パラリンピックを通じ、障害者とそうでない人が一緒に活動する機会を増やせば、相互に理解が深まるはずだ。今後障害者の雇用が増えることも理想だ。活動を共にすることで、障害者の隠れた可能性を引き出すことができると思う。これを実現可能にするにはユニバーサルデザインを強化する必要があるが、残念ながら日本はユニバーサルデザインに関しては、アメリカや北欧に比べ遅れをとっている。オリンピックを機にユニバーサルデザインを意識した施設の建設、街作りをし、東京を皆が共存出来る都市にすれば、海外からの観光客も増えるであろう。

オリンピック開催までに、日本は沢山の課題を解決しなければならない、そのうちの一つ、日本のイメージアップ対策は必須だ。2011年の東日本大震災後、日本への訪問者が激減し、観光客が戻るまでに時間が掛かった。その後日中関係が悪化し、中国人観光客数の回復に時間を要した。日本政府は原子力発電所の運営について、今後どのようなスタンスを取るかを明確に、また福島第一原子力発電所の廃炉への進捗を公にアップデートするべきだ。そして近隣国との外交も非常に重要である。日本が発信する明確な情報こそが外国人が持つ日本のイメージを左右する。

先日、日本へ出張に来たインド人たちと交流する機会があった。彼らは学者ではなく、インドの日本現地法人に勤める民間人。会話の中でとても驚く質問をされた。1945年に広島と長崎に投下された原爆で、そのエリアはまだ放射

能の値が高く、人がいないと言われているけれど本当かと。広島は今世界遺産もある観光地であると答えると驚かれた。日本に住み、週末の銀座などにいると、世界中の言語が飛び交い東京は国際都市な印象だが、日本に対して実際と違う認識を持った人はまだまだいることを痛感する。特に福島第一原子力発電所の爆発事故に関しては、誤解が多い。太平洋をはさんだアメリカ西海岸の人々は日本から流れてきた放射能でビーチは危険だと、子どもを近づけない親が多いと聞く。魚はもちろん食べない。現状について何も知らないまま、日本を恐れている。彼らは福島第一原発が安全に廃炉にする為に数十年の計画を綿密にたて、放射能汚染を広げず、作業員の安全に気遣い日々活動していることを知らない。安全に関する透明性を世界は求めている。それには日本政府発信の情報が一番信頼性がある。早急に正しい日本の有様を世界に配信すべきだ。

日本は世界の日本を目指すべきだが、近年の近隣国との政治関係の悪化は経済や貿易にも悪い影響を与えている。2020年までに、日中関係、日韓関係を改善できれば、経済も潤い日本にとってメリットになる。領土紛争、歴史問題等に関してはすぐの解決は難しいが、対話を重ね、東アジアの和解へ積極的姿勢を見せれば、日本のイメージも上がるだろう。オリンピックの役目の一つはスポーツを通じて国々の友好平和を促進することで、2020年までに近隣国と関係修復が出来れば、オリンピックはより友好的な雰囲気になれ、ホストとしての日本は外交面でも国際社会に賞賛されるだろう。

今から約5年という限られた時間で、これらを達成すれば、歴史的なオリンピックとなるだろう。今ある恵まれた環境を活かし、さらに発展させ、世界へ存在感を高めていけば、東京は持続可能な国際都市として人々の記憶に刻まれる。日本はどこへ行っても、美しいみどりとみずがあり、四季がそれらを彩る。世界の人々に美しい日本を知ってもらうべきだ。繰り返すが、日本は日本人が思っているよりずっと魅力的な国だ。自信持ってオリンピックへの準備を進めて欲しい。2020年を楽しみにしている。